

# 愛媛県宇和島市遠戸島におけるオウムガイ *Nautilus pompilius* Linnaeus, 1758 の漂着例

水野 晃秀

オウムガイ *Nautilus pompilius* Linnaeus は、東南アジアから北部オーストラリア、メラネシアにかけての熱帯海域に分布し、陸棚域から水深 500m 付近に生息する。本種を含むオウムガイ類は一般に「生きている化石」と呼称されるが、化石として産するオウムガイとは別種と考えられており（ウオード, 1995）、厳密な意味での生きた化石ではない。本種の死殻は海流によって運ばれ、稀に西南日本の沿岸まで漂着することが知られているほか、九州南部で生体が採集されたことがある（吉良, 1962；奥谷, 2000）。

2001年9月20日、愛媛県宇和島市戸島の南側に位置する遠戸島（とおどしま）の沖合約 200m

にある魚類養殖生簀のそばで、漂着流していた本種の死殻が採集された。愛媛県では、これまでに宇和海で5例の漂着が報告されており（石川, 1996）、今回が本県6例目の漂着例となる。

標本は殻の長径が 123.2mm、短径は 78.8mm で、殻口部が大きく破損していた（写真 1）。殻の色彩および模様は、殻表白地に明瞭な紫褐色の放射色帯が走っておりオウムガイの特徴を備えていた。また、殻口部内側表面にわずかのカサネカンザシ *Protohydroides elegans* が付着していただけで、それ以外の付着生物はみられなかった。標本は現在、著者が保管している。



写真1 オウムガイ *Nautilus pompilius*（長径 123.2mm、短径 78.8mm）

稿を終えるにあたり、御校閲頂いた愛媛県魚病指導センターの清水孝昭氏と、採集したオウムガイを御提供頂いた宇和島市戸島の片桐直樹氏に対し謹んで感謝の意を表する。

### 引用文献

石川 裕. 1996. 愛媛県におけるオウムガイの漂着例. 南予生物, 9 (1・2) : 20-21.  
吉良哲明. 1962. オウムガイ科. 吉良哲明著, 増

補改訂版 原色日本貝類図鑑. 保育社, 大阪. 184-185.

奥谷喬司. 2000. オウムガイ科. 奥谷喬司編著, 日本近海産貝類図鑑. 東海大学出版会, 東京. 1086-1087.

ウオード P. D. (小島郁生監訳). 1995. オウムガイの謎. 河出書房新社, 東京. 320 pp.

(みずの こうき 〒 798-0068 宇和島市明倫町 1-39 愛媛県立宇和島水産高等学校)